



やぐもだい

令和 6 年 9 月 3 0 日
調布市立八雲台小学校
校長 上田 義孝
<http://www.chofu-schools.jp/yagumodai-sho/>

実りの秋、自分らしく

副校長 吉沢 洋

少し冷えた秋の空気が心地よい時となりました。長かった残暑も終わりが見えてきて、いよいよ秋本番。この季節は物事に集中して取り組むことに適した時期で、スポーツの秋、読書の秋、芸術の秋、などと言われます。

「読書の秋」

私は子供の頃、読書が苦手でした。苦手といえば柔らかい感じがしますが、正直に言うと嫌いでした。漫画は大好きでよく読んでいたのですが、文字だけの本になるとどうしても意欲的になれない自分がいました。大人になってからは、誰から言われるわけでもなく自然と読むようになり特に推理小説が好きで読書を楽しむようになりました。

さて、八雲台小学校では本に親しんでもらうためにさまざまな取組を行っています。

【図書委員会による読書旬間の活動】

図書委員会がアイデアを出し合って取り組んでいます。昨年は「読書郵便」「図書集会」等の取組が行われました。

【ぶっくばあく・PTA による読み聞かせ】

八雲台小学校では、「読み聞かせボランティア ぶっくばあく」の皆さんを中心に朝の読み聞かせをしていただいています。また、お昼の放送でも読み聞かせをしていただいています。PTA の読み聞かせサークルの皆さんにも朝の読み聞かせをしていただいています。

【先生たちのおすすめの本】

先生たちがおすすめの本の紹介カードを作成しました。夏休みの課題として一生懸命作成しました。図書室に掲示中です。学校にお越しの際は、ぜひご覧ください。



少しでも、本に親しんでほしくて様々な活動を行う理由としてはいくつかありますが、私自身が強く思っていることを最後に紹介します。

本、とりわけ物語（小説）を読むと相手の気持ちを考えられる優しい人になれるのだそうです。なぜ本を読むだけでなれるのかというと、そこには訳があります。自分ではない他の誰かになる、つまり登場人物になりきって本を読むことで、一緒になってハラハラしたり、喜んだり、悲しんだり…することができます。本を読むことで、多様な人生を疑似体験することができます。たくさん本を読んで、自分ではない他の誰かの人生をたくさん疑似体験することで、現実の世界でも他の誰かの気持ちを理解することにつながります。こうして、本を読むことで心が豊かになり、優しい人になれるのです。もちろん、本を読むことだけでなく他のことも大切です。

スポーツの秋、芸術の秋など自分なりの秋を満喫しながら素敵な自分を見つけたいと思います。